



## 「1人だけの卒業式 & 令和3年度修了式」



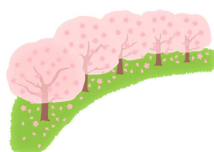
・3月15日（火）、家庭の都合で卒業式に参加できなかったAさんの「一人だけの一週間遅れの卒業式」を、子どもたちが下校して静まりかえった体育館で行いました。学級担任と一緒にAさんが入場してくると、全職員が温かい拍手で迎えました。その後も、卒業証書授与、式辞、呼び掛け、全て本番と同じ流れです。呼び掛けは、卒業式のVTRを活用して臨場感を演出しました。Aさんは自分のせりふを完璧に覚えており、台本を見ることなく発表しました。我が子の姿に感動して何度も涙を拭う御両親を見て、「一人だけの卒業式」を計画してよかったと思いました。一人の子どもを大切にしないとき、教育は光を失います。特別支援教育は、「一人一人の子どもの特性を大切にせる教育」「一人一人のニーズに合わせた幅の広い教育」「一人一人の子どもの影の部分为解决し、光の部分により輝かせる教育」です。欠席せざるを得なかった一人の子どもに対して、「リモートで式に参加させたい」「後日、Aさんと保護者の都合のよいときに卒業式をやりたい」と願い出たかつの校職員の優しさを誇りに思います。ちなみに、この日は御両親の結婚記念日でもあり、きっと忘れられない日になったことでしょう。

・3月18日（金）、修了式を行いました。卒業式同様にピンと張り詰めた緊張感の中、小学部生と中学部生は、一人一人修了証書を受け取りました。高等部生は一人一人返事をしてその場に立ち、進級の認定を受けました。子どもたちの修了式に臨む真剣な態度と表情、整然とした立ち振る舞いに胸が



熱くなりました。式の雰囲気を感じながら、行動することは事前の練習だけでできるものではありません。在校生として卒業式を体験したことが、「分かった」につながり、今日の行動に結び付いていると思いました。さらに、1年間の頑張りが大きな自信となり、子どもたちの晴れ晴れしい表情や態度に表れたのです。そんな子どもたちの姿を誇らしく思いました。学校の最高の成果は、子どもの成長と笑顔です。

・新型コロナウイルス感染症拡大により、近隣の学校が休校や学年・学級閉鎖措置を行っている中、かつの校は学びを止めることなく、全員で令和3年度のゴールにたどり着きました。4月からコロナ対策と特色ある教育の両立を目指します。



かつの校副校長 加賀谷 勝

